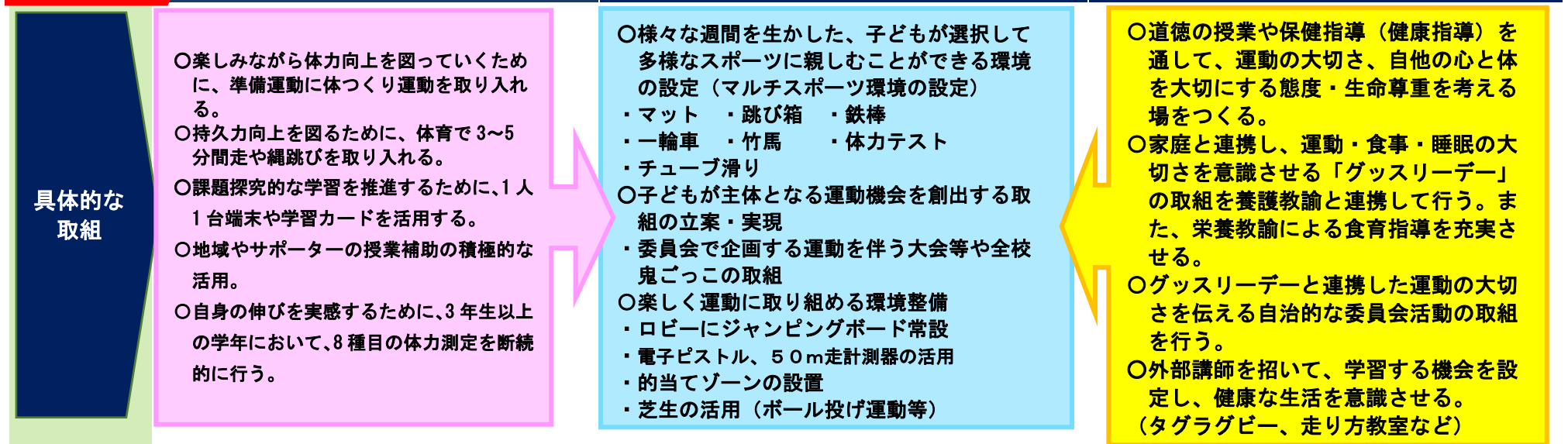


令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 結果		分析
体力・運動能力 <男子>	<p>○前回の記録を上回った種目 上体起こし、長座体前屈、反復横とび 20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび ソフトボール投げ</p> <p>○前回の記録を下回った種目 握力（全国平均は上回っている）</p>	<p>・9年間を通した健やかな体の育成という視点から、小中連携して「走り方教室」を行ったことで、男女共に20mシャトルランの結果が昨年度を上回った。</p>
体力・運動能力 <女子>	<p>○前回の記録を上回った種目 上体起こし、長座体前屈、20mシャトルラン 50m走、立ち幅とび</p> <p>○前回の記録を下回った種目 握力、反復横とび、ソフトボール投げ （握力、ソフトボール投げは全国平均を上回っている）</p>	<p>・ジャンピングボードや的当てゾーン、ケンパゾーンといった場の設置による運動の機会の創出によって、男女共に昨年度の結果を上回る種目が増えた。</p>
運動・スポーツへの意識、運動習慣	<p>・「運動やスポーツをすることが好き」「やや好き」と肯定的に回答する子どもの割合 R7 男子：88.5% 女子：85%</p> <p>・「体育の授業は楽しい」「やや楽しい」と肯定的に回答する子どもの割合 R7 男子：96% 女子：85%</p> <p>・「保健を学習して、もっと運動しようと思うようになった」「やや思うようになった」と回答する子どもの割合 R7 男子：76.9% 女子：90%</p>	<p>・男子は、体育が楽しいと感じる子の割合が運動が好きな子の割合を上回っており、課題探究的な楽しい授業実践の取組の成果が表れている。女子は、男子よりも運動を肯定的に捉える子の割合は低いだが、保健の学習によって運動の大切さを感じている子の割合が高い。課題探究的な授業実践の継続と共に、運動の楽しさを伝える取組を図る必要がある。</p>

三つの取組	①体育・保健体育等の授業の充実	②授業以外で子どもの運動機会を創出する取組	③子どもが自らの健康の保持増進を図る取組の充実
-------	-----------------	-----------------------	-------------------------



家庭・地域との連携・協働	<p>○保健体育の評価規準に基づく学習状況評価結果の活用（日常の実技テストや観察等）</p> <p>○全国体力・運動能力、運動習慣等調査や学校独自の体力テスト等を活用</p> <p>○学校独自の児童・生徒アンケートや保護者アンケート及び自己評価等の活用</p> <p>○学校運営協議会・学校関係者評価等の活用</p>
---------------------	--